

1 主題設定の理由

一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境の実現を目指す GIGA スクール構想が 2021 年度から、中学校でも全面実施となり、1 年が経過した。

また、「Society5.0」を見据えた「STEAM 教育」も提唱され、教育の変革は加速度的に進められている。本県でも「未来の教室」をテーマに、中・長期的なビジョンで GIGA スクール構想の実現を目指している。

そこで、本班では、それぞれの学校の GIGA スクールスタートからの取組をまとめ、教頭としてどう関わっていけばよいかを明らかにするために本主題を設定した。

2 研究のねらい

GIGA スクール構想の実現に向けた各学校の取組と教頭の特に研修への関わり方を考察し、教育活動の充実に資する。

3 研究の概要と成果

(1)櫛中学校の取組

①授業での活用

- ア 各教科で課題の指示や配付、提出等をロイロノートを活用して行った。
- イ 英語科では、課題として生徒が録音または録画したデータを提出している。

②授業以外での活用

- ア 全校集会や生徒集会等における発表時に Zoom を活用して実施した。

③研修体制の整備

- ア 情報教育推進リーダーや、タブレット端末操作のスキルを習得している職員で、全体研修やグループ別研修など多様な形態で実施した。

(2)宮崎中学校の取組

①授業での活用

- ア 各教科で課題の指示や配付、提出等をロイロノートを活用して行った。

イ ロイロノートを用いて、生徒自身の考えを引き出したり、その考えの共有化を図ったりし、協働学習の推進の一助とした。

ウ 学年閉鎖中に、Zoom を用いて授業の配信を行った。また、病気療養の生徒に対しても、同様の対応を行った。

②授業以外での活用

- ア Zoom を用いて、集会や生徒会発表等を実施した。また、全校集会終了後に学年集会をそれぞれの学年で行った。

③研修体制の整備

- ア 情報教育推進リーダーや、タブレット端末操作のスキルを習得している職員が中心となり、デジタルスキルの向上を希望する職員を対象に、夏季休業中にサマーデジタルセミナー(SDS)を6回実施した。

(3)宮崎東中学校の取組

①授業での活用

- ア 次時の準備物の連絡や各教科で課題の指示や配付、提出等をロイロノートを活用して行った。
- イ キュビナを活用し、生徒の進度に合わせた課題に取り組みさせた。
- ウ コロナ禍において登校できない生徒に対して授業配信を行った。

②授業以外での活用

- ア 全校集会や生徒総会、中体連の壮行会、PTA総会等において Zoom を活用して実施した。



【Zoom を活用した生徒会選挙】

イ 不登校傾向の生徒に対し、月に一度学級担任が Zoom を活用して面談を行っている。

③研修体制の整備

ア 研究主任、技術担当の職員や情報教育推進リーダーがタブレット活用の効果的な活用について紹介し、全体研修やグループ別研修など多様な形態で実施した。

イ 小学校との共同で進めている職員研修にタブレット端末の活用を内容に入れ小学校と連携して積極的なタブレット端末活用に取り組んでいる。

(4) 宮崎西中学校の取組

①授業での活用

ア 各教科で課題の指示や配付、提出等をロイロノートを活用して行った。

イ 英語科では、課題として生徒が録音または、録画したデータを提出している。

②授業以外での活用

ア 集会や生徒会発表等に Zoom を活用して実施した。

イ 週末課題の一つとして、キュビナに取り組ませた。

③研修体制の整備

ア 情報教育推進リーダーや、タブレット端末操作のスキルを習得している職員で、全体研修を実施した。

(5) 東大宮中学校の取組

①授業での活用

午後から生徒を下校させ、全校生徒を対象にオンライン授業の試行を行った。

ア 生徒・保護者に文書で周知。

イ オンライン授業の研修。全職員のひむかメールアカウントの取得。

ウ 令和4年9月14日(水)5校時に実施。

エ タブレットスタンド3台、スピーカーフォン20台購入等、情報教育環境の整備。

②授業以外での活用

ア 集会や行事にズームを活用した。

③研修体制の整備

ア 情報教育アドバイザーによる個人研修を行った。

(6) 宮大附属中学校の取組

①授業での活用

ア 音楽ではガレッジバンドを活用して、音楽制作を生徒に行わせている。

イ 美術では指導すべき技能を撮影し、動画を配信し、技能向上に役立てている。

ウ どの教科もロイロノートを教科独自で活用している。

②授業以外での活用

ア NIE の取組で、生徒会専門委員会が委員会活動に関係する新聞記事をタブレットで撮影し、ロイロノートを使ってその問いを全校生徒に配信し、全校生徒がその問いに答えるという探究学習を行っている。

イ 欠席の生徒に、授業の板書やワークシート等を、ロイロノートで送付している。

ウ マイクロソフトホワイトボードで、生徒会の協議等を在宅で行っている。

エ 教育実習においても、実習生がロイロノートを使えるようにアカウントを取得し、実習授業で活用した。

③研修体制の整備

ア 情報教育担当が、全体研修を行ったり、必要なスキルや、活用できるアプリなどをロイロノートやC4th で情報共有したりしている。

4 今後の課題

タブレット端末の活用は、職員間による個人差が大きい。全職員が実際に活用して、その経験値を積み重ねることが大切と考える。実践後、職員が Zoom やロイロノートの機能について、アドバイザーに積極的に質問したり、職員室でオンライン授業の話題が増えたりしたことが挙げられる。ただ、映像や音声が伝わりにくかったケースも度々あり、ハード面の整備において多くの課題がある。

また、生徒一人一人の個に応じた使い方ができるように、研修を積んでいく必要や、生徒の情報モラルが足りない部分があり、情報モラル教育の充実や外部機関との連携も課題である。

タブレット端末の活用が、生徒の学力向上にどのように反映されるのか検証できていない事象があり、今後その手立てやデータの開示等が大きな課題と考えられる。